

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成29年度採択分）  
「アジアにおける中東研究のリーディングジャーナルとしての『日本中東学会年報』の国際情報発信強化」  
（課題番号：17HP3001）

学術団体名：日本中東学会  
学術刊行物の名称：日本中東学会年報  
事業期間：平成29(2017)年度～令和3(2021)年度

## 1 取組の概要

### <取組内容の特徴と目的、意義及び方法>

日本における中東研究の中核的学会である日本中東学会は、平成7年に韓国・中国・モンゴル各国の中東学会とアジア中東学会連合を結成し、アジアにおける中東研究の発展に貢献してきた。また、アジア中東学会連合が組織運営の一翼を担う中東研究世界大会を通じて、研究成果を世界へ発信してきた。日本中東学会の情報発信の中核を担うのが、学会誌『日本中東学会年報』である。本科研費事業では、『日本中東学会年報』を通じた中東研究の成果の国際発信力を一層強化することをめざす。

### <応募時に設定した取組の目標・評価指標>

(1) 国際連携の強化：アジア中東学会連合や中東研究世界大会組織委員会との連携を強化するため、継続的な人的交流を行う。アジア各国の中東学会の国内年次大会などへの積極的な参加を学会員に促し、日本人研究者の英語による発表を促進する。4年ごとに開催される中東研究世界大会には学会から理事や若手会員を派遣するほか、2年に1回開催されるアジア中東学会連合大会では、『日本中東学会年報』への投稿を前提としたパネルを組織する。

(2) 『日本中東学会年報』の欧文化促進：日本人研究者の欧文による投稿を奨励・サポートするとともに、海外研究者からの欧文論文の投稿を促進すべく、本誌への投稿を積極的に呼びかける。2019年度に海外からの年間投稿数を全体数の4分の1程度、2021年度に3分の1程度とすることをめざす。欧文率は3年後には欧文率55～60%、5年後には欧文率を60～65%をめざす。

(3) 『日本中東学会年報』の査読体制の国際化：2015年に『日本中東学会年報』編集委員会は海外編集委員の増員を行った結果、日本人編集委員14名・海外編集委員5名となり、海外からの投稿に対応可能な体制を整備した。欧文の投稿論文について、海外編集委員または論文のテーマに応じた適切な海外研究者へ積極的に査読を依頼する。5年間で海外査読者による査読を順次増やし、2021年度に全査読数の20%は海外査読者によるものとする。

(4) 『日本中東学会年報』のオープンアクセス化促進：2017年度よりJ-STAGEに参加し、『日本中東学会年報』のオープンアクセス化を実現し、既刊号の閲覧・ダウンロードを可能にする。

## 2 目標の達成状況

### <現在までの目標の達成状況>

(1) 国際連携の強化：アジア諸国の中東学会、アジア中東学会連合、中東研究世界大会との人的交流と発展させ、『日本中東学会年報』の地位確立に努めた。

(2) 『日本中東学会年報』の欧文化促進：学会員・海外研究者への英語原稿投稿を呼び掛け、欧文化率50%弱、海外からの投稿の割合30%弱を達成した。

(3) 『日本中東学会年報』の査読体制の国際化：欧語原稿査読に十分対応できる体制を整え、海外研究者の査読割合を高めるために、海外査読者による査読依頼を進めている。

(4) 『日本中東学会年報』のオープンアクセス化促進：2017年度にJ-STAGEでの公開を完了した。

### <今後の計画>

(1) 国際連携の強化：引き続き、アジア諸国の中東学会、アジア中東学会連合、中東研究世界大会等との人的交流と発展させ、『日本中東学会年報』の広報活動に努める。

(2) 『日本中東学会年報』の欧文化促進：今後も学会員・海外研究者への欧文での投稿を促し、『日本中東学会年報』での英語特集の掲載を進めることで、欧文化率・海外投稿率の目標を達成する。

(3) 『日本中東学会年報』の査読体制の国際化：欧文原稿のテーマに即し、査読の適任者と考えられる海外の編集研究者の査読依頼を進めることで、全査読数の20%を海外査読者によるものとする。

(4) 『日本中東学会年報』のオープンアクセス化促進：2017年度にJ-STAGEでの公開を完了した。